

保育所実習において学生が抱く感情についての調査研究 I

— 保育実習 I を中心に —

○ 鎌田陽世 (和光学園)

小川圭子 (四天王寺大学)

I 調査の目的

佐藤ら (2008) は、老年看護学実習において、学生の印象に残った場面での感情を焦点化し、快の感情である「喜び」などが全体の 6 割をしめ、快の感情が患者へ積極的に関わるための動機付けとなっていることを示した。一方、保育領域においては、不安感や困難感に焦点をあてた調査研究が多く見受けられるものの、快の感情を含めた感情体験に言及したものは少ない。

そこで、本研究では、保育所実習に参加した学生を対象に、ネガティブな感情およびポジティブな感情を抱いたエピソードについて聞き取り調査を行い、学生の印象に残った場面での感情体験について検討した。

II 方法

(1) 調査対象：2013 年 8 月下旬から 9 月上旬にかけて、はじめての保育所実習 (2 週間) に参加した大学 2 年生女子 20 名。

(2) 調査期間：2013 年 10 月。

(3) 調査手続き：半構造化面接により、1 人につき約 20 分の聞き取り調査を実施した。「ネガティブな感情」として、実習中に「困った」、「不安・心配だった」、「戸惑った」と感じた出来事 (エピソード) は何かについて尋ねた。つぎに「ポジ

ティブな感情」として「楽しい」、「嬉しい」、「幸せ」だと感じた出来事は何かについて尋ねた。

この面接によって、20 名の学生から全部で 261 件 (1 人平均約 13 件) のエピソードを得た。

III 結果と考察

藤塚 (2013) の示した、保育実習における「実習内容の項目」を 2 名の研究者が KJ 法によって分類・整理し、9 項目を得た。つぎに、半構造化面接によって得られたネガティブおよびポジティブな感情を抱いたエピソードが、どの項目に当てはまるかを評定・分類した (表 1)。その結果、「困った」、「不安・心配だった」、「戸惑った」などネガティブな感情につながるエピソードは、「a. 保育士の指導や態度」25 件 (21%) をはじめとして、a から d までの各カテゴリーに、比較的まんべんなく見られた。その一方「楽しい」、「嬉しい」、「幸せ」などポジティブな感情については、「c. 特定の場面での子どもとの関わり」が 78 件 (59%) と突出していた。具体的には「子どもが自分の名前を覚えてくれた」、「一緒に絵本を読んだ」など、子どもとの日常的な関わりの中でポジティブな感情を抱き、初めての实習における大きな動機付けとなっていることがうかがわれる結果となった。

表1 カテゴリー別にみたネガティブな感情およびポジティブな感情を抱いたエピソード数

カテゴリー	ネガティブな感情				ポジティブな感情				その他	合 計
	困った	不安・心配	戸惑い	小 計	楽しさ	嬉しさ	幸せ	小 計		
a. 保育士の指導や態度	10	6	9	25 (21)	2	12	4	18 (14)	3	46 (18)
b. 子どもの発達・特性に応じた関わり	15	2	6	23 (19)	2	7	0	9 (7)	0	32 (12)
c. 特定の場面での子どもとの関わり	13	3	6	22 (19)	26	34	18	78 (59)	1	101 (39)
d. 実習生としての在り方	8	9	4	21 (18)	0	2	2	4 (3)	2	27 (10)
e. 保育実践 (技術)	5	4	4	13 (11)	10	10	0	20 (15)	0	33 (13)
f. 実習日誌の記入・作成	4	4	1	9 (8)	0	1	0	1 (1)	0	10 (4)
g. 保育所の方針	1	1	2	4 (3)	0	1	0	1 (1)	2	7 (3)
h. 保護者との関わり	1	0	0	1 (1)	0	2	0	2 (2)	0	3 (1)
i. 職員同士の関係	0	0	0	0 (0)	0	0	0	0 (0)	1	1 (0)
j. その他	0	0	0	0 (0)	0	0	0	0 (0)	1	1 (0)
合 計	57	29	32	118 (100)	40	69	24	133 (100)	10	261 (100)

単位: 件数 (%)